

# コリアタウンと『韓国併合』100年



画／水会委員・日展会友

武藤初雄「生野区のコリアタウン」

朝鮮を日本の植民地とし、他民族への最初の本格的な侵略を開始した韓国併合(条約の相手国名は大韓帝国)から今年は100年にあたる。併合前年までは在日朝鮮人は790名余り(『日本帝国年鑑』から)で大部分は留学生だったが併合後、入国制限がなくなり、1920年には3万人、1938年には80万人に達した。背景には日本政府が朝鮮農民の土地収奪のための「土地調査事業」や会社令により植民地労働力を必要としたことにある。さらに1937年からの日中戦争、1941年の太平洋戦争開戦により戦時動員体制による入国政策がとられたが、そのいずれもが本人の自由意思でなく官憲による強制連行であり、事実、野良仕事に追われるようにトラックに乗せられて、そのまま日本に連行された人もあった。太平洋戦争敗戦時には実に在日朝鮮人は210万人に及んだ。(内務省警保局統計)

コリアタウンのある生野区の在日韓国・朝鮮人人口は指紋押捺問題が社会問題化した1980年代から約1万人減少したが、現在28,369人(2010年1月末)。もちろん全国の市区町村では最大の在日人口である。生野の地、しかも猪飼野に多くが集住したルーツは1920年頃の平野川改修により定住したとする説と、作家の金賛汀氏のように、朝鮮の土工は運河の建設につれ飯場を移した。本場の猪飼野住人はこの地域が宅地化されその借家に住んだ「町工場などで働いていた職工たちで、その多くは済州島出身者」であるという済州島・大阪間の定期航路「君が代丸」移住説がある。梁石日著「血の骨」を読んだが、どうも後者の説に分がありそうだ。

コリア半島の植民地化という併合100年を、私たちとして、深い反省の上に立って日本帝国主義の素顔として捉え、侵略の歴史を美化する者を許さず、今後の日本人とコリアンの真の友好に生かすことではないか。(N)